OGK Giken

家族にあらたな体験と感動を

# 家族にあらたな体験と感動を

## OGKは2025に向けて
## 世界の家族にあらたな体験と感動を提供します

OGKは70年以上にわたり、自転車パーツを中心に、お客さまの日常に寄り添ったものづくりを続けてきました。
人の心を和ます製品づくりで、お客さまに貢献するという想いは創業から今も変わらず受け継がれています。

一方、過去から今日に至るまで、私たちの生活様式は、さまざまな技術革新によって、大きく変化してきました。お客さまが製品・サービスに求めるニーズやウォンツも、同様に大きく変化しています。その中で、私たちにできることは何か。日常でのおやこの触れ合いや、家族、友人と共有する時間の価値は今も不変です。どれだけ生活様式が変わっても、お客さまが家族とともに過ごす時間は幸せな時間であって欲しい。そのために、私たちは私たちができることを徹底し、進化、革新していきます。お客さまの欲しいを実現させる「パイオニア精神」と家族の幸せな時間を共有する「共感力」、安心安全なものづくりや満足度No.1を支える「創造力」、そして、企業と社会の好循環を実現させる「サステナブル志向」。それぞれを私たちにとって、大切な価値観と位置づけ、家族の移動創造企業として、世界の家族にあらたな体験と感動を提供する。

これから創業100周年を目指すにあたり、創業からのものづくりへの想いをさらに高い次元へと引き上げ、唯一無二の創造力と独自の実現力で世界の家族を幸せにすることを使命として、私たちはさらなる発展を目指します。

オージーケー技研株式会社
代表取締役社長
木村 泰治

# OGK SDGs宣言

世界の家族にあらたな体験と感動を提供するため、
持続可能な社会の実現を目指し、
私たちの大切な価値観に沿って、SDGsを企業活動目標に取り入れています。

## あらたな移動体験と感動を創る

8 働きがいも経済成長も

家族の移動を快適にし、より楽しむための土壌やニーズを拾い上げ、社会の活性化につながるあらたな移動体験と感動を創る活動を行っています。活動を行う原動力は社員の幸せです。社員の心身が常に健康であり、パイオニア精神を大切にしたやりがいのある環境づくりを進めています。

## 世界の家族の幸せを

3 すべての人に健康と福祉を

11 住み続けられるまちづくりを

安心安全に家族が“おでかけ”できる社会の実現をめざし、移動が難しい家族へ各々に適した手段を届けることで、さまざまな家族の移動を叶える社会づくりに努めています。

## サステナブル志向

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

環境負荷を最小限に抑えるための開発及び3R（リデュース、リユース、リサイクル）への取り組みや、自転車での移動による$CO_2$削減及び健康的なライフスタイルのコミュニティづくりを推進しています。

## MISSION

### OGKの
### 存在理由

**OGKは創造力と実現力で**
**世界の家族を幸せにします**

**OGKは社員の幸せを**
**原動力に発展します**

時代の変化とともに家族のカタチや
時間の使い方が変化しても、
人と人とのつながりや絆の価値は不変です
OGKが培ってきた創造力と実現力で、
あらたな体験や感動を生み出し、
世界の家族を幸せにすること、
それが私たちOGKの使命です

## VALUE

### 大切にしたい
### 4つの価値

私たちは、パイオニア精神を大切にし、
失敗・変化を恐れずに挑戦し続けます

私たちは唯一無二の創造力で
製品・サービスの開発・改善に取り組みます

私たちは、サステナブル思考と
長期的な視野で行動します

私たちは、共感力を高めて、
世界の家族の幸せを追及します

## VISION

### 世界の家族に
### あらたな体験と感動を

**欲しいの創造**
時代の変化をつくる共感を創る

**満足度No.1**
ファンを創造する製品・サービスである

**安心安全**
最高水準の安全を提供し、安心を生む

**循環型社会**
OGKは企業活動と社会の好循環を追求する

**家族の幸せ**
世界の家族の幸せな時間を拓く

# Road to 2025　4つの柱

世界の家族にあらたな体験と感動を提供するため
“Road to 2025　4つの柱” をスタートさせました。

家族の移動創造
パイオニア クオリティ
2025
モビリティの未来へ

# ものづくりの領域

さまざまな家族の移動へ欲しいを創造する
OGK の 6 つのものづくり領域です。

## Family scene

### チャイルドシート

お子さまとの自転車ライフをより快適に 安心安全な親子の移動を創る

抱きしめて守る
GRANDIA
グランディア

“ケガゼロミッション”を
代表するフラッグシップブランド

安心安全な親子の移動を創る
チャイルドシート各種

多胎家族の
子育て支援を創る
ふたごじてんしゃ

チャイルドシートの快適時間を創る
レインカバー
オプショングッズ

### サイクルトレーラー

家族のお出かけが楽しくなる新しい移動を創る

「大変」を「楽しい」に
シフトする！
家族のための
サイクルトレーラー
キャミリー
Camily
CARRY FAMILY

### OGK ペット

ペットとのお出かけが楽しくなる移動を創る

子どもたちの未来を守る“ケガゼロミッション 2025”を軸とした製品づくりで、
家族が安心してお出かけできる社会の実現を目指しています。

## Personal scene

＼FUN Item／

### 自転車パーツ・アクセサリー

自分らしいサイクルライフを創る

MUNI

### バスケット

快適な買い物ライフを創る

### グリップ・その他

快適な自転車ライフを創る

# パイオニア クオリティ 2025

お子さまからお年寄り、そしてペットなど家族の様々な移動を支えるあらたなモビリティ＝家族の安心安全と快適な移動の在り方を創造します。

**家族のあらたなモビリティの在り方をパイオニア精神で創造します。**

チャイルドシート / Camily / Bicycle

## 2021

### Camily Debut

子ども乗せ自転車でも牽引できて、
スムーズな走行を実現したサイクルトレーラー。
これまで大変だった大きい重い荷物も
ラクラク持ち運べ、自転車でのおでかけや、
遊びの可能性がぐんと広がります。
「Camily」で、毎日がもっと楽しく!

## 2022

## 2023

### GRANDIA 新型ヘッドガード（頭部保護）

転倒時のお子さまへの
重症化リスクを約８０%軽減する
新型ヘッドガード搭載
チャイルドシート

### Camily for Leisure and Town Life

自転車で「運ぶ」を進化させ、
ペットやアウトドアなど
様々な家族のカタチに貢献する
新型バスケットを複数開発

### ふたごじてんしゃ

ふたごじてんしゃを
電動アシスト機能で
更に快適に

## 2025

### GRANDIA ADVANCE（全身保護）

頭部を極限まで守る新型ヘッドガードに
加えて頭部以外の身体もしっかり
保護する進化型自転車用
チャイルドシート

### Camily for New standard

自転車での移動時だけでなく、
「Camily」が新たな当たり前として
さまざまなシーンやモビリティで
活用される未来を目指す

### マルチモビリティ

障がいを抱えたお子さまや大型の
ペットなど、様々な家族の移動を
支えるモビリティ

# 技術革新

自転車用品のトップシェアを握るパイオニアとして様々な素材、構造を研究し、
新たな家族の移動を創造する製品の実現を目指しています。

## 金属に変わる万能素材プラスチックで 多彩な製品を生み出す

軽くて強度があり、しかも錆びないプラスチックは、熱を加える事で硬くなる熱硬化性と、熱を加えると柔らかくなる熱可塑性の 2 つの特性を持っています。複合することで、鋼鉄のような硬さもゴムのような柔らかさも実現することができます。この素材の特性を生かして多彩な製品を生み出してきたのが、OGK の技術力です。

## 技術を通して世の中をプラスに 社名に込められた想い

技術開発に際してOGK が常に意識していることは、世の中にプラスになる技術であるかどうかです。お客さまの生活を快適にし、しかもメーカーのコスト削減にもなるような社会貢献も技術を通して実現したいと考えています。「大阪グリップ化工」から「オージーケー技研株式会社」に社名を変更する際、OGKに技術を付したのは二代目社長・木村景雨。ものづくりと自社技術への誇りが、社名には込められているのです。

## 変革なくして進化なし 先入観や常識にとらわれない創意工夫

「できない」という先入観や常識にとらわれない、あきらめない「変革なくして進化なし」の意識を、経営陣から社員にいたるまでの全社が共有していることがOGK の強みです。たとえヒット製品であっても、それに甘んじることなく常に改良アップデートを繰り返し創意工夫をしています。時流に合わない旧製品は廃番にしていく。そんな新陳代謝を盛んに行っています。

# ものづくり基準

人の心を和ます製品づくりをOGKの原点とし、お客さまの欲しいを創造する時代の変化、共感を創るライフスタイルに貢献できるものづくりを目指しています。

## 衝撃に強く、丈夫で劣化しにくい樹脂の特性を活かしたものづくり

OGK 製品の素材には金属を使用していません。ほぼすべてのパーツは、樹脂で作られているのです。その大きな理由のひとつに、安全性があげられます。雨風にさらされることの多いチャイルドシートをはじめとする自転車パーツに金属を使うと、万が一錆びが発生したときに、安全性に大きく影響してしまうのです。また、オール樹脂にすることで金属製よりはるかに軽く、適度にしなるので快適な使い心地も提供できます。

## 人間工学を取り入れた設計と感性に訴えるデザイン性

1980 年代から社内にデザインチームを置き、「人間工学」と「感性」、相互に刺激を与えあうと同時に両面へ訴えかけるものづくりを追求してきました。新しいコンセプトやモノの存在の意味を考え、独創的な発想をもって豊かな生活のためのデザインを行っています。自転車の部品パーツの生産が海外にシフトする現状の中で、安易な価格競争に走ることなく「日本のものづくり」の真価を発揮することが、OGK の信念です。

## 柔らかい子どもの肌を守る細部まで追求した安全性

少しでもひっかかりをなくし、ぶつかったときの危険を減らすために、対象年齢が1歳から小学校入学までのチャイルドシートは、すべてのパーツにエッジをなくし、丸みをもたせています。また、リヤチャイルドシートは自転車のキャリヤに取り付けますが、万が一キャリヤが破損しても安全を確保できるよう、チャイルドシートと自転車本体を結ぶ安全ベルトを装備しています。

## ものづくりの強みスムーズな連携プレー

OGK では、開発・技術・製造の三課が同じフロアに机を並べています。設計の段階で技術的な疑問や相談事が発生すると、すぐに3つの課で会議を行うためです。さらに技術や金型との連携により、社内の作業工程を短縮できたりコスト削減に繋がったりと、あらゆる面において進化を遂げることができます。これは、開発から製造までほとんどを自社でまかなっている OGK だからこその強みです。

# 安全性への取り組み

最高水準の安全を提供し安心を生むため、（一財）製品安全協会が定めるSG規格※よりも更に厳しい独自の安全基準を設定したOGK品質を実現しています。

※SG規格とは：日用品などを対象に、一定の安全性を保障する制度。対象製品ごとに形状や機能など、それぞれの基準が定められており、基準適合品に対してSGマークが表示されます。経済産業省所管の財団法人製品 安全協会が認証し、経済産業大臣が承認しています。

## 子どもの頭部を守る厳しい安全基準を設置

### 振動試験

すべての製品を振動試験機にかけ、製品の安定性や耐久性を確認しています。実使用に近づけるため1歳から5歳児までのダミー人形を用いています。

### 衝突試験

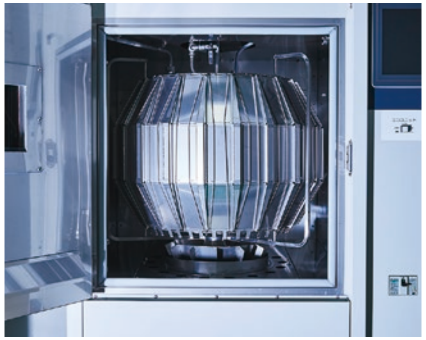
頭部の受傷事故に多い側面衝突シーンを再現するため、自社内に実験スペースを設けました。衝突するスピード、位置によって、多様な状況の検証をしています。

### 衝撃測定

振動実験も衝突実験も、子どもの脳が受ける衝撃をHIC値としてデータ収集することで、実際の受傷程度を想定することが可能になりました。

## 悪条件下での耐候性を綿密にテスト

屋外に置かれることの多い自転車。特に日光はどんな製品にとっても劣化を早める天敵です。チャイルドシートの本体につかわれる素材はもちろん、シートベルトやクッションなど、安全性に直結する部品の試験は入念に行います。試験機の内部で短時間に悪条件を発生させ、製品の変化を調べます。

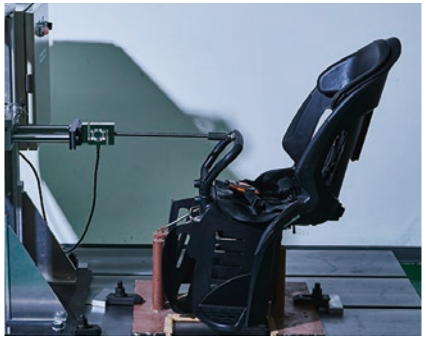


## 万が一の事故でも子どもの安全を守る転倒試験

自転車転倒の社内独自の試験として、まずチャイルドシートの両ステップに3kgずつ、座席に20kgの重りをのせます。さらに道路の過酷な状況を想定してヘッドレストにぶつかる部分にコンクリートブロックを置きます。この状態で自転車を勢いよく地面へ倒してもチャイルドシートが破損しないように設計しています。

## 完成品の各部分ごとに強度を測定

様々な状況で使用される弊社製品は時として想像できない外圧を受けることがあります。時には製品そのものを変形・破壊することでユーザーを守らなければならないこともあります。試験機で大きな力を製品に加えることで、製品の変化具合を見ています。



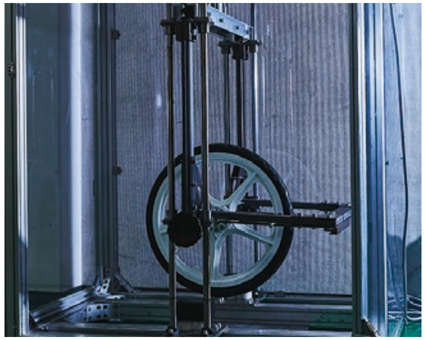
# 安全性への取り組み

## 各パーツごとにも
## 強度を測定

製品は部品の組み合わせでできています。個々の部品の性能が製品となった時の性能となるため、試験機で製品に大きな力を加え、製品の変化具合を見ています。

## 強くそして急激な衝撃に
## 耐えるためのテスト

日常では予想を超える衝撃の発生もあります。製品を落下させて急激な衝撃を加えることで、チャイルドシートをはじめホイルやバスケットなどそれぞれの製品に見合った耐衝撃性能が備わっているかをテストしています。



## 実際に走行している
## 状況を再現

舗装された道でも段差は必ずあるものです。また、登り坂と下り坂はもちろん、そのときどきで路面の状況も変わります。試験機で、段差や凸凹道など実際に自転車で走行している状況を再現し、テストを行っています。

# ZEROTECT

子どもの頭部衝撃を吸収する技術 ZEROTECTで
幼い子どもの未来を守ります。

## ケガゼロをめざして
## 進化するOGKの技術

ZEROTECT

子どもは家族の希望。
しかし、停車時の自転車の転倒などから、
毎年多くの子どもが頭部損傷を中心としたケガを負っています。

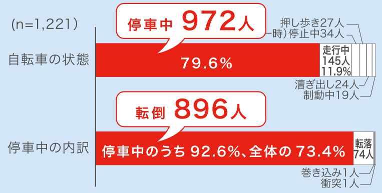
転倒や外部接触の衝撃から子どもを守るため、
検証と試作を繰り返して追求したリブ構造で
頭部への衝撃を吸収するZEROTECTを開発しました。

自転車事故での衝撃ゼロ=[ZERO]をめざして
開発した技術=[TECHNOLOGY]として名付けたZEROTECTは、
自転車事故から幼い子どもの未来を守るため、進化し続けます。

## 〈開発背景〉

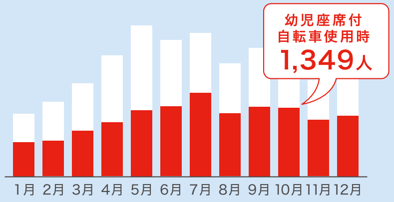
### 転倒衝撃を緩和する技術開発へ
### 自転車停車中の転倒事故が非常に多いという事実に着目

**東京消防庁救急搬送データ※1**
**(2011～2017年累計)**
**1,221人**




※1 幼児同乗中の自転車単独事故データのうち、自転車の状態が確認できる1221人分のデータ
出典:東京消防庁救急搬送データを加工して作成
(https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/member/assets/csic_member_201225_02.pdf)

**自転車の事故※2 月別救急搬送人数**
**2,607人**




※2 自転車の事故における、幼児用座席付自転車使用時の子ども(14歳以下)
出典:総務省統計局ホームページを加工して作成
(https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/weekly_2018/pdf/weekly_2018_180509_0003.pdf)

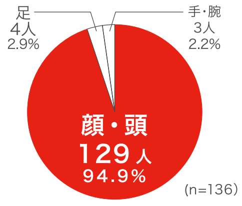
### 自転車事故に多い原因「停車中の乗せ降ろし時や発進時の転倒」

子ども乗せ自転車転倒による頭部損傷事故は年間100件※3 にものぼります。2018年度より「子どもの事故防止週間」が実施され、保育園や幼稚園でも安全対策の呼びかけが行われています。

自転車転倒事故が起きやすいのは、停車中の乗せ降ろし時や、停車している状態から発進するときです。特に大人1人、子ども2人の3人乗り自転車は、自転車自体の重さも加えるとかなりの重量になります。ふらつきから転倒すると、頭部損傷を中心とした大ケガに繋がる可能性があります。

OGKは、停車中の転倒衝撃を緩和させることに重点を置き、子どものケガゼロをめざす技術開発に取り組むことに至りました。

**重症時、受傷部位例※4**




※3「子どもの事故防止に関する関係省庁連絡会議」より
※4 全体の9割以上が顔や頭を受傷。
足や腕を骨折する事故も発生。

出典:東京消防庁 救急搬送データを加工して作成
(https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/topics/nichijou/kkhdata/data/r2_7.pdf#page=10)

# ZEROTECT

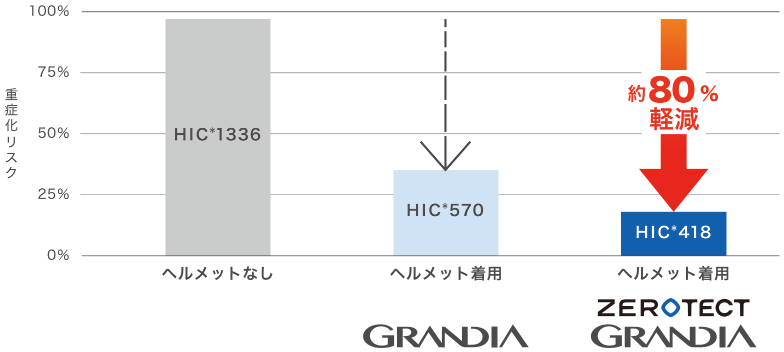
子どもの頭部衝撃を吸収する技術 ZEROTECTで
幼い子どもの未来を守ります。

## 〈ZEROTECT のエビデンス〉

**万が一の事故時、頭部を無傷・軽傷に抑えられる技術**

### 重症化リスクを約80%軽減

**6 歳児相当の重症化リスク**




＊子どもの脳が受ける衝撃(HIC 値)を元に数値を算出 (HIC2000 を越えると死亡する確率が極めて高い〈OGK 調べ〉)
衝撃値(HIC 値)の測定および算出は(一財)日本車両検査協会が行い、傷害リスク評価は Prasad/Mertz Probability Curve※5) に基づき算出(オージーケー技研調べ)。試験は JIS T8134 に準じた装置を用い、ISO A 人頭を約 1.6m の高さから平面アンビル上に置いた製品に対して落下させる方法で行った。すべての試験において、人頭皮と同様の緩衝能を持つとされる発泡スチロール※6) を人頭皮代替材として用いた。

※5 NHTSA, PROPOSED AMENDMENT TO FMVSS No 213 FRONTAL TEST PROCEDURE, Docket No.NHTSA-2002-11707-0006, 2002
※6 益澤秀明 , 頭蓋骨骨折発生の力学的研究 –実験的研究と脳外傷に関する考察– , 脳と神経 , 第 24 巻 , 第 5 号 , 1972

このデータは一定の条件下で行われた試験結果であり、あらゆる事故に対する安全性を保証するものではなく、
運転者・同乗者ともに必ずヘルメットを着用し、交通法規を守って運転してください。

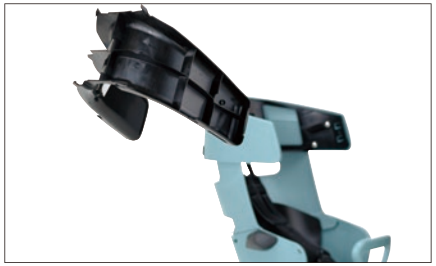
12 つくる責任 つかう責任

**〈SDGs の取り組み〉**

ZEROTECT は社内でリサイクルしやすい材料選定及び製造工程の見直しにより、産業廃棄物削減をより強化しています。

### リブ構造で衝撃を吸収

**ZEROTECT 機能**



ZEROTECT は、転倒や外部接触の衝撃から子どもを守るため、検証と試作を繰り返して追求したリブ構造で頭部への衝撃を吸収します。

# 製品紹介

世界の家族にあらたな移動体験と感動を創る
製品を展開しています。

## 抱きしめて守る
## GRANDIA
グランディア

“ケガゼロミッション”を
代表するフラッグシップブランド

ケガゼロミッション 2025
幼い子どもの未来へ

GRANDIA ZERO PLUS
R REAR seat
リヤベビーシート
グランディア ゼロプラス
RBC-017DX ZERO PLUS

1歳から はじめる ケガゼロ

GRANDIA ZERO
R REAR seat
リヤキッズシート
グランディア ゼロ
RBC-017DX ZERO

GRANDIA
F FRONT seat
フロントベビーシート
グランディア
FBC-017DX3

1歳から はじめる ケガゼロ

1歳から はじめる ケガゼロ

### 1歳からはじめるケガゼロ 「抱きしめて守るマーク」

すべての子どもを自転車事故から守りたい、という想いから生まれた「抱きしめて守る」グランディアシリーズ。頭から足までの全身を包み込む「抱きしめて守る」を体現するようなフォルム、さまざまな安心安全機能を搭載しています。グランディアシリーズは 1 歳からはじめるケガゼロを伝える「抱きしめて守る」マークをシンボルとし、フロント・リヤ共に 1 歳から使用できる製品を開発、販売しています。より多くの家族の安心安全につながるよう広めていきます。

# ふたごじてんしゃ®

多様な家族の移動を実現するため
ふたごじてんしゃ社と共同で
実施している取り組み

幼児２人同乗用三輪自転車
「ふたごじてんしゃ」
TWB-001 ver.C

# urban iki
イキ BY OGK

オランダのデザイナーと
OGKが作った
ヨーロッパを中心に展開する
チャイルドシートブランド

Urban Iki公式サイト

Instagram

Facebook

# MUNI

自分らしい
サイクルライフを創る
自転車パーツ・アクセサリー

MUNI公式サイト

Instagram

Facebook

# Camily

CARRY FAMILY

“大変”を“楽しい”にシフトする！
家族のためのサイクルトレーラー
「Camily」
これまで大変だった大きい荷物も
ラクラク持ち運べ、自転車でのお出かけや、
遊びの可能性がぐんと広がります。

Camily
サイクルトレーラー
CT-001

Camiliy公式サイト

Instagram

Facebook

# OGK ペット

日本国内トップシェアをほこる
自転車用チャイルドシートの
パイオニアメーカーとして、
家族の一員であるペットにも目を向けて
自転車移動の安全と快適を
追求していきます。

「サイクルポーターリュック」
PET-001

「サイクルペットスリング」
PET-002

# ケガゼロの社会

# ケガゼロミッション 2025

「私たちのチャイルドシートで子どもを自転車事故から守りたい」
“ケガゼロミッション”で幼い子どもの未来を守ります。

**安心安全に家族がおでかけできる“ケガゼロ”の社会の実現をめざします。**

## 2021
### 自転車転倒時 子どもの飛び出しゼロをめざして

転倒時、子どもがチャイルドシートから飛び出す危険ゼロをめざします。
転倒時のケガはシートベルトの着用で大幅に防ぐことができます。OGKではシートベルトの装着率アップのため、安全に関する情報発信を行うとともに、商品改良を重ね、より安全で装着しやすいシートベルトの認知・普及率向上を実現します。2020年発売の「ハグシステム」を搭載した「グランディアプラス」を筆頭に、子どもの成長に合わせシートベルトのサイズフィッティングができ、装着時のわずらわしさを解消する、安心で快適な商品開発を進めます。

## 2022
### 子どもの頭部“ケガゼロ”を目指して新チャイルドシート開発スタート

自転車転倒時のお子さま頭部のケガゼロをめざして、転倒時の衝撃を軽減していく新型ヘッドガードの開発をスタートします。段階的に衝撃吸収力を向上させ、最終的にHIC値100以下をめざし転倒時の重症確率を極限まで軽減します。

## 2023
### 自転車転倒時　子どもの頭部“ケガゼロ”をめざして

2022年から本格開発をスタートした新型ヘッドガードをGRANDIAに搭載し、段階的にお子さまの頭部ケガゼロをめざします。万一の事故やケガを軽減する機能を搭載し、家族の安心安全な移動をサポートします。シートベルトやヘルメット着用の必要性や、交通ルール・マナーを継続して発信し、ケガゼロの社会の実現に向けて活動します。

## 2024
### さまざまな家族の移動を叶えるマルチモビリティ開発をスタート

低重心、転倒しにくいなどふたごじてんしゃとチャイルドシート開発で培ったノウハウをお子さまだけでなくペットなどにも展開し、さまざまな家族とともに安心して移動できるマルチモビリティ開発をスタートします。

## 2025
### さまざまな家族の移動を支える“ケガゼロ”

マルチモビリティや、転倒時に頭を含めたお子さまを守るチャイルドシートの開発により、さまざまな家族の移動のケガゼロをめざします。
１歳未満や6歳以上のお子さまなど、現在は自転車用チャイルドシート利用の対象外となるお子さまの移動にも目を向け、さまざまな家族の移動シーンでケガを限りなくゼロに近づける社会をめざします。マルチモビリティの先の移動手段開発に着手していきます。
また、リユース車体の再販事業に着手し、サステナブルな事業発展をめざします。

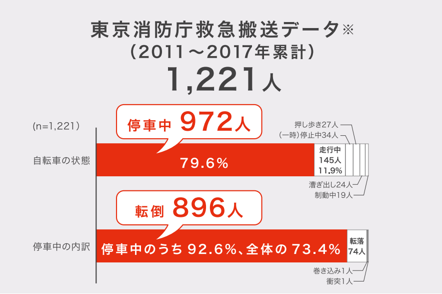
# “ケガゼロ”4つのミッション

チャイルドシートメーカーのパイオニアとして“ケガゼロ”の未来をつくるため、4つのミッションを連動し取り組みを続けていきます。

## 知る

### 衝突・転倒などの事故事例収集

チャイルドシート自転車転倒による頭部損傷事故は年間**100件**※1 にものぼります。2018年度より「子どもの事故防止週間」が実施され、保育園や幼稚園でも安全対策の呼びかけが行われています。　※1「子どもの事故防止に関する関係省庁連絡会議」より




※ 幼児同乗中の自転車単独事故データのうち、自転車の状態が確認できる1221人分のデータ

出典：東京消防庁救急搬送データを加工して作成
(https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/member/assets/csic_member_201225_02.pdf)

※ 自転車の事故における、幼児用座席付自転車使用時の子ども（14歳以下）

出典：総務省統計局ホームページを加工して作成
(https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/weekly_2018/pdf/weekly_2018_180509_0003.pdf)

### ユーザーの市場調査

年間を通じて、全国各地でユーザーの声をアンケート形式で収集。またユーザー座談会などを通して定量・定性調査を実施。製品の安全性向上につなげています。

### 子どものケガゼロをめざす技術開発

事例収集、市場調査を元に、自転車事故から幼い子どもの未来を守るための技術開発へつなげています。

## ものづくり

### 安心・安全へのネクストステップ

子どもの脳の9割は6歳までに完成する※
頭部を守るグランディアの開発へ

※スキャモンの発育・発達曲線より Scammon RE, et al (1930)

収集した事故事例や検証結果から見えたことは、追突・衝突・転倒による頭部側面への受傷が多いということと、シートベルトの装着が頭部を保護する上で重要であるということ。これによって、新しい製品のコンセプトが決まりました。ケガから子どもを守り、ママが使いやすく、見た目にもスマートに…3年以上にわたって試行錯誤を繰り返し「抱きしめて守る」グランディアが生まれました。

カバー範囲 国内最大級※

※2023年11月 OGK調べ

2019
「抱きしめて守る」グランディアを開発

GRANDIA
グランディア

1997

業界初
しなやかで強い
オール樹脂製
チャイルドシート
を発売

2005

衝撃吸収率
約90%以上
頭部を守る
ヘッドレスト開発

2011

フラッグシップ
モデル
街に映える
デザイン性を
重視

2014

子どもをしっかり
ホールドする
ベルトの追求

2016

低年齢でも
安心して後ろに
乗せられる
製品開発

2018

ふたごの子どもに
特化した
専用設計

# エビデンス

## 子どもの頭部を守る<br>厳しい安全基準を設置

自転車事故によるケガから子どもを守るため、常に新しい安心・安全を提供すべく、独自の検査体制を設け、検査基準をクリアした製品のみを市場へ送り出しています。

### 振動試験

すべての製品を振動試験機にかけ、製品の安定性や耐久性を確認しています。実使用に近づけるため1歳から5歳児までのダミー人形を用いています。

### 衝突試験

頭部の受傷事故に多い側面衝突シーンを再現するため、自社内に実験スペースを設けました。衝突するスピード、位置によって、多様な状況の検証をしています。

### 衝撃測定

振動実験も衝突実験も、子どもの脳が受ける衝撃をHIC 値としてデータ収集することで、実際の受傷程度を想定することが可能になりました。

## カスタマーサポート

お客様からのご相談やご意見を即日調査し、製品の改善点などを把握。各関連部門へ共有します。特に製品の安全性向上のための改良は最重要視し、検査体制の強化、試験・基準の向上につなげています。

# 伝える

## 親子サイクリングへの<br>取り組み

お子さま頭部のケガゼロをめざす製品作りだけでなく、事故自体を減らすため、親子の安全意識を高める活動を展開しています。「親になったらもう一度自転車を学ぼう。」をスローガンにした“おやこじてんしゃプロジェクト”と連動して全国で勉強会を開催しています。

※オンラインでも開催しています。

めざせ事故ゼロ!
おやこじてんしゃプロジェクト
supported by OGK

### チャイルドシートの乗り方講習

各地でチャイルドシートの正しい乗り方、使い方の講習会を開催しています。大人と子ども、どちらもがチャイルドシートを知ることで、笑顔溢れる毎日を過ごしてもらいたい。万が一の事態にも備えるよう事故事例を紹介することも大切な私たちの使命です。

## 製品理解への取り組み

“ふたごじてんしゃ”においては、ご購入希望者に事前に購入前診断を受けていただく「アセスメント販売®」を株式会社ふたごじてんしゃと協力して実施。購入前から製品理解を深めていただくことで、事故や製品トラブルを生み出しにくい仕組みを構築しています。

# 未来のコミュニティへの取り組み・サービス

ふたごじてんしゃの取り組み

めざせ事故ゼロ!
おやこじてんしゃ
プロジェクト
supported by OGK

おやこじてんしゃプロジェクト

# 1Mile Smile 2025

リアルとオンラインを通じて家族から行政、異業種が共創し
新たな価値を生み出すコミュニティを築きます。

**家族が笑顔でおでかけできる「OGK とみなさまで創っていく」コミュニティを築きます。**

2019 年イベントでの様子

| | 取り組み | サービス |
|---|---|---|
| 2021 | 1Mile Smile 構想開始<br>幼保への移動手段提案 | おやこじてんしゃ中心に学びの場提供 |
| 2022 | 環境に配慮した資材へパッケージを変更<br>サステナブル素材を活用した製品を開発 | **幸せなタウンライフのための情報提供を強化**<br>各地域での取り組みや活動実績を基に、おやこじてんしゃやSNSでの情報をグレードアップ |
| 2023 | 関東、関西それぞれの自治体、幼保でコミュニティ形成<br>ふたごじてんしゃにてリユースやサブスクでのサービス提供を試験的に開始。<br>OGKの事業所での廃棄物を2022年比で30%以上削減<br>循環型社会に対応する分解可能な構造の製品開発を社内基準化し、順次新製品に展開 | **リアルとオンラインによるOGK独自の顧客接点を活用したコミュニティーを形成**<br>様々な家族の移動に貢献するための情報収集や発信を実施。 |
| 2025 | 環境に配慮した素材選定や分解構造、メンテナンスしやすい設計での商品開発を実施し、サステナブルなビジネスを拡大<br>2026年までにOGK事業所内での廃棄物を2022年比で90%以上削減し、リサイクル原料の全体に占める使用量を15%まで高める | **マルチモビリティの情報発信スタート**<br>お客様との直接的なコミュニティーを活用して、さまざまな家族が安心して移動するための情報提供を実施。製品、サービスのサポートを充実させ、家族の移動ニーズに応える。循環型社会を目指して、お客さまのリサイクルをサポート。 |

# OGKの取り組み

多様な家族の移動を実現するため、ふたごじてんしゃをはじめとした
企業、行政などの繋がりとともにできる取り組みを推進します。

## ふたごじてんしゃ

ふたごじてんしゃで、家族の移動を幸せな時間にしたい。
多様な家族の移動を実現するため、ふたごじてんしゃ社と共同で実施している取り組みです。

### 製品理解への取り組み

“ふたごじてんしゃ”においては、ご購入希望者に事前に購入前診断を受けていただく「アセスメント販売®」を株式会社ふたごじてんしゃと協力して実施。購入前から製品理解を深めていただくことで、事故や製品トラブルを生み出しにくい仕組みを構築しています。

### 【表彰】令和２年度 自転車活用推進功績者

OGK のパートナーである株式会社ふたごじてんしゃが、
令和２年度 自転車活用推進功績者として表彰されました。

写真提供：株式会社ふたごじてんしゃ

## あらたな移動を拓く出展活動

時代の変化をつくる製品を BtoB 向けで発表し、
世界の家族のあらたな体験と感動を生み出す新市場を拓きます。

# OGK のサービス

幸せなタウンライフのための地域でのイベント、情報発信、オンラインを通したサービスを推進します。

## おやこじてんしゃプロジェクト

「親になったら自転車を学ぼう」をスローガンにOGKがサポートし、全国で勉強会を開催しています。 ※オンラインでも開催しています。

### 親子サイクリングへの取り組み

お子さま頭部のケガゼロをめざす製品作りだけでなく、事故自体を減らすため、親子の安全意識を高める活動を展開しています。「親になったらもう一度自転車を学ぼう。」をスローガンにした“おやこじてんしゃプロジェクト”と連動して全国で勉強会を開催しています。 ※オンラインでも開催しています

### チャイルドシートの乗り方講習

各地でチャイルドシートの正しい乗り方、使い方の講習会を開催しています。大人と子ども、どちらもがチャイルドシートを知ることで、笑顔溢れる毎日を過ごしてもらいたい、万が一の事態にも備えるよう事故事例を紹介することも大切な私たちの使命です。

## イベント

地域のコミュニティでのイベント・勉強会や Web 講座を随時行っています。

## OGK 情報発信

OGK の公式サイトや SNS では、最新ニュース、製品のお役立ち情報やブランドヒストリーなど、様々な OGK ストーリーを共有しています。

OGK　公式 Instagram　OGK　公式 Facebook　OGK　公式 LINE　OGK　公式 YouTube

## 家庭ゴミとして分解できる製品づくり

可燃ごみとして分別できるように、分解できる製品づくりを進めています。
梱包材を減らし、プラスチック削減にも取り組んでいます。

## 保証、保険

大切なお子さまの安心・安全のため、小学校に上がるまで使うチャイルドシートの保証制度です。

# 会社概要

— 東大阪を拠点とするOGK —

| | |
|---|---|
| 社名<br>（英文社名） | オージーケー技研株式会社<br>OGK CO.,LTD |
| 所在地 | 本社<br>〒577-0066　東大阪市高井田本通 6-2-32<br>電話（06）6782-4353（代表）<br><br>事業所<br>水走工場<br>〒578-0921　東大阪市水走２丁目9-53<br>電話　072-964-4551（代表）<br><br>中国事務所（昆山奥技研国际贸易有限公司）<br>〒215-300　江蘇省昆山市开发区蓬朗镇环娄路<br>777 号 2 号厂房<br>電話　+86-18260290491 |

水走工場

| | |
|---|---|
| 代表取締役社長 | 木村　泰治 |
| 設立 | 1948 年（昭和23 年）9 月 |
| 資本金 | 9,600 万円 |
| 従業員数 | 98 名　（2023 年 10 月現在） |
| 営業品目 | 自転車用チャイルドシート、バスケット、<br>ドレスガード、発泡車輪、その他樹脂製自転車部品、<br>各種グリップ、その他樹脂製品全般の製造販売 |
| 関係会社 | OGK Europe B.V.　株式会社オージーケーカブト<br>株式会社韓国 OGK　株式会社グレンフィールド |

## グローバル展開

OGK は日本を中心に海外拠点と各国の代理店を通じて、高い品質と機能性を持つ OGK 製品を販売しております。また、国内および海外市場での販売の伸びに対応して海外生産拠点を設け、生産能力の増強を図っています。

# 会社沿革

## ー 自転車用品のパイオニアOGKの歩み ー

### 創業者の情熱が受け継がれるものづくりの歴史

素材の持つあらゆる可能性に挑戦し、ものづくりで社会貢献を。半世紀を経た現在に受け継がれてきた創業者の情熱により築き上げた、自転車用品のパイオニアとしての歴史をご紹介します。

**2020 -**

- 2023年（令和5年）　ペット業界参入<br>ゼロテクト装備のチャイルドシートの製造・販売開始
- 2021年（令和3年）　サイクルトレーラー Camily 製造・販売開始<br>欧米向けチャイルドシート urban Iki の日本国内販売を開始
- 2020年（令和2年）　「抱きしめて守る」で変えていく GRANDIA リヤベビーシート グランディア プラス、同フロントベビーシートの製造・販売開始

**2010 -**

- 2019年（平成31年）　抱きしめて、守る　リヤキッズシート GRANDIA RBC-017DX 製造・販売開始
- 2018年（平成30年）　幼児2人同乗用三輪自転車 ふたごじてんしゃ 製造・販売開始<br>木村泰治　社長就任
- 2016年（平成28年）　OGK Europe B.V. 設立
- 2015年（平成27年）　射出成形機 850トン導入
- 2013年（平成25年）　第1回プライベートショー開催
- 2011年（平成23年）　本社新社屋完成<br>ヘッドレスト付コンフォートリヤキッズシート RBC-011DX 製造・販売開始

**2000 -**

- 2008年（平成20年）　幼児・育児関連用品の製造・販売開始（OGK baby）
- 2005年（平成17年）　ヘッドレスト付デラックスリヤキッズシート RBC-007DX 製造・販売開始
- 2002年（平成14年）　樹脂成形一体型うしろ子どものせ RBC-003 製造・販売開始<br>フリーキャリーシステム導入・販売開始
- 2001年（平成13年）　昆山奥技研塑膠制品有限公司設立<br>樹脂成形一体型フロント子どものせ FBC-003 製造・販売開始<br>ハイバックうしろ子どものせ RBC-005 製造・販売開始

**1990 -**

- 1997年（平成9年）　福祉業界に参入
- 1996年（平成8年）　透明バスケット販売開始
- 1995年（平成7年）　中空ホイール　ストリームV販売開始
- 1994年（平成6年）　セラミックファイバーホイール販売開始<br>樹脂製籐風バスケットの開発に成功
- 1993年（平成5年）　1450オンス2色成形機導入<br>エコホイール販売開始<br>木村秀元　社長就任
- 1992年（平成4年）　水走工場増築
- 1991年（平成3年）　水走工場グラスファイバーホイール自動成形ライン完成
- 1990年（平成2年）　社名をオージーケー技研株式会社に改称

**1980 -**

- 1989年（平成1年）　水走工場竣工
- 1988年（昭和63年）　射出成形によるソフトシェルの開発と輸出開始<br>一輪車が日本一輪車協会認定品となる<br>大阪中小企業投資育成（株）の投資を受ける<br>資本金 9,600万円に増資
- 1987年（昭和62年）　大人車用2色バスケットの発売<br>日本工業標準規格表示許可工場認定<br>製品安全協会登録工場に認定
- 1985年（昭和60年）　一輪車の製造販売・開始<br>ブロー成形でソフトシェルの製造開始<br>ソフトシェル型ヘルメット第1号出荷<br>第二次ヘルメットブーム
- 1983年（昭和58年）　SH-202の開発<br>日本初のアマ車連公認ヘルメットとなる<br>セミジェット型ヘルメットの製造・販売開始<br>アメリカ向けサイクルヘルメットの製造・販売開始<br>サイクルヘルメットがアメリカの消費者安全規格に合格<br>子供車用バスケット販売開始<br>優良法人に認定される
- 1982年（昭和57年）　オージーケー販売株式会社設立（現：株式会社オージーケーカブト）<br>ヘルメット組立工場を新設<br>スポーツヘルメットの製造・販売開始
- 1981年（昭和56年）　ジェット型帽体の開発<br>射出成形機 650トンを導入<br>韓国 OGK 株式会社設立
- 1980年（昭和55年）　防寒レシーバーの販売<br>BMX用20インチグラスファイバーホイールの製品化に成功　アメリカへ輸出開始

**1970 -**

- 1979年（昭和54年）　夜間・昼間用停止表示器材の製造販売開始<br>20インチグラスファイバーホイールの開発に着手
- 1978年（昭和53年）　双頭式成形機5台に増設<br>ロータリー式撤去し姿を消す<br>第一次ヘルメットブーム
- 1976年（昭和51年）　ポッポガードの販売開始
- 1975年（昭和50年）　タイヤ巻機の第1号導入<br>補助車輪でほぼ国内市場を制覇<br>アメリカ・ニューヨークサイクルショーに初出展、以降各ショーに出展
- 1974年（昭和49年）　半キャップ帽体の技術確立
- 1973年（昭和48年）　双頭式成形機1号機の導入<br>西堤倉庫竣工
- 1972年（昭和47年）　自転車用風防の開発<br>三輪車用バスケットの製造・販売開始<br>西堤社宅の建設
- 1971年（昭和46年）　ロータリー発泡成形機を導入<br>4寸・6寸 EVA 発泡車輪の開発
- 1970年（昭和45年）　150ミリ径　塩ビ車輪の開発<br>ショッピングカー業界に参入<br>射出成形機によるノーパンクタイヤの開発に着手<br>通産省（現、経済産業省）輸出貢献企業に認定される

**1960 -**

- 1968年（昭和43年）　資本金を1,200万円に増資
- 1967年（昭和42年）　同乗器の開発<br>30オンス射出成形機の導入<br>ドレスガードの製造・販売開始
- 1966年（昭和41年）　幼児車用バスケットの開発
- 1964年（昭和39年）　自転車用ヘルメットの開発<br>自動梱包機を導入<br>MKヘルメットの開発<br>以降、2型、3型、5型と製造販売
- 1963年（昭和38年）　幼児車補助車輪の開発<br>90ミリ径塩ビ車輪の開発
- 1962年（昭和37年）　塩化ビニール原料の内製化に成功<br>金形・成形工場の建設<br>幼児車用一体化ペダルの開発
- 1961年（昭和36年）　射出成形機第2号導入
- 1960年（昭和35年）　射出成形によるグリップ開発<br>射出成形機第1号導入と製造開始

**1950 -**

- 1957年（昭和32年）　ペーストレジン流入法による生産に切り替え
- 1955年（昭和30年）　木村景雨　社長就任<br>工業所有権第1号取得<br>塩化ビニールグリップをプレス方式で生産
- 1953年（昭和28年）　金属キャップ取付法の新考案と権利出願<br>同製品の生産開始
- 1950年（昭和25年）　東南アジア向けグリップ開発<br>通産省（現、経済産業省）「工業用アルコール使用」承認を得る

**1940 -**

- 1948年（昭和23年）　大阪グリップ化工株式会社設立（資本金 200,000円）
- 1941年（昭和16年）　初代社長、木村祥雨　就任<br>創業者木村祥雨、「木村セルロイド工業所」を創業

# Be a Pioneer

## 今日をつくるパイオニア

私たちは常に前へ、そして自ら変化し続けることで

たしかな、そして新しい家族の「今日」をつくります。

安全で当たり前、と言えるまでの安全安心を徹底し、

移動の新しい感動や体験を創造します。

Be a Pioneer

これが私たち OGK の文化。

創業 100 年を見据えて世界中の家族の幸せな未来のために

世の中にないものを生み出すパイオニアであり続けます。

「健康経営優良法人認定制度」に基づく
「健康経営優良法人 2024」に
4 年連続認定されました。

2024
健康経営優良法人
Health and productivity

OGK giken
家族にあらたな体験と感動を


オージーケー技研株式会社

本 社：〒577-0066 東大阪市高井田本通6丁目2-32
TEL：06-6782-4353(代)　FAX：06-6782-4357
https://ogk.co.jp


OGKサイト
https://ogk.co.jp

公式インスタグラム
@ogkgiken_official

公式フェイスブック
ogk.co.jp

公式 LINE


この内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。



2404_100